

東北大学における責務相反・利益相反 マネジメント制度構築の現状と課題

東北大学利益相反検討委員会コアメンバー委員長
大学院経済学研究科教授
NICHe副センター長
西澤昭夫

「ベスト・プラクティス」の導入が 「悪魔の選択」に変わる懸念

実行基盤のない制度導入は逆効果となる

- マクロ・レベル: マスコミを含め、国民全体に殆ど
認識がない ⇒ 日米の成熟度
- メソ・レベル: 原則の大転換 ⇒ 大学における認
識の有無
- ミクロ・レベル: 個別大学へのCOIマネジメント制
度導入圧力 ⇒ 実効性を伴わない制度

国立大学法人の職員の責務

職員としての義務

法人法・大学の理念・就業規則など関連法規を遵守すること

教育義務

学生に対する講義・ゼミ・論文指導などを通じて教育すること

研究義務

学会発表・論文を通じた研究成果の公表すること

産学連携

第三のミッションとしての社会貢献
公開講座・学生の受入れ・公益委員の引受け



技術移転・大学発ベンチャー企業
高度化・複雑化・コミットメントを要する

東北大学産学連携ポリシー

(2003.3.18 評議会承認)

東北大学は、

1. 開学以来の「実学尊重」の伝統と実践を礎に、学術成果を産業界等に積極的に技術移転することを通じ、本学における**教育と研究の社会的付加価値**を高めます。
2. 大学における知的活動の成果を活用するための組織をおき、産学連携活動を通じ**国際競争力を持つ我が国産業の発展に貢献**します。
3. 「産学連携」活動を効果的に推進し、**我が国の経済・社会の発展に貢献**します。
4. **地域産業界との持続的な連携**を目指します。
5. **透明性の高い産学連携活動**を行い、**十分な説明責任**を果たします。

**産学連携は、外部機関との関係において、責務相反・利益相反
マネージメントを不可避なものとする。**

責務相反・利益相反マネジメントの難しさ

- 潜在的利益相反 (Potential)
職員からの適時・的確な申告や報告により、責務相反・利益相反の存在を認識する。
- 第三者から利益相反と見られる状態 (Appearance)
実際に生じているか否かによらず、責務相反・利益相反による弊害が生じているのではないかと外部から見られる状態。
- 顕在的利益相反 (Actual)
実際に責務相反・利益相反による弊害等が生じている状態。

ポイントは、Potential COIを把握した上で、当該教職員が共同研究、兼業、ベンチャー創業に絡む時、AppearanceやActualに至らないよう、適切にマネジメントすることにある。即ち、Potentialを前提に、AppearanceやActualの発生を事前に察知し、予防し、教職員を守ることが重要である。ただし、Appearanceについては判断が分かれるため、その合意が不可欠であり、かつ困難となる点である。

責務相反・利益相反の弊害

研究への悪影響：**真実性**を喪失

研究成果に**バイアス**が持ち込まれる

研究者の個人的な利益が研究の方向性に影響を及ぼす

職務を果たすために使うべき時間が学外活動のために**短縮**される

教育への悪影響：**学生をスポイル**しかねない

大学に対する社会からの**信頼性**を前提にした**期待感 (Integrity)**の喪失

責務相反・利益相反マネジメントの目的

1. 東北大学の**信頼性と期待感**を維持すること。
2. 産学連携を**適正に**推進すること。
3. 責務相反・利益相反による**弊害の回避**。
4. 組織として教職員を**保護**する。
5. 社会に対する**説明責任**を果たす。

責務相反・利益相反マネジメントの対象

責務相反・利益相反マネジメント

教育と研究
に専念

共同研究・兼業・ベンチャー創業などの目的で大学外部組織との接触

産学連携に伴う責務相反・利益相反の把握

弊害の発生又はそのように見られる状況の発生

違法行為

継続開示: ヒアリングと調査

事象対応Mgt:
COIの弊害回避

責務相反・利益相反マネジメントの程度

具体的に何をするのか

- 外部利害関係の継続開示（ = Potentialの把握）：責務相反・利益相反マネジメント対象者の把握
- 事象対応マネジメント：Actual化の予防及びAppearance に対する外部批判へ対応するための事前確認と承認・回避対応

東北大学における構築スケジュール

